

三木町就学前の子どもの教育・保育のあり方検討委員会
第3回会議議事概要

- 1 日 時 令和2年3月30日（水）
- 2 開 会 午後1時00分
- 3 閉 会 午後3時00分
- 4 場 所 三木町防災センター 第1研修室
- 5 出席者（委員）津山勝義、阿野秋子、杉山恵子、石濱敏男、鯛谷聖玲菜、
白井敬根、宮武尚美、久米美佳、馬場正光
伊藤町長、森教育長（事務局）まんでがん子ども課：美馬一生、
塩津利幸、道官丈晴、大下美幸、安西美香、内田博子

6 会議経過

- (1) 開会
- (2) 町長あいさつ
- (3) 議事

① 今後の待機児童対策について

第1回及び第2回の会議において、①待機児童の解消、②幼稚園・保育所における利用児童のアンバランス、③公立保育所においては住居地から遠い施設に通っている児童が多いといった課題を明確にするとともに、認定こども園等の現地視察を行い、就学前施設の現状について理解を深めた。これらを踏まえて各委員から出された意見等の主な内容は下記のとおり。

- ・幼稚園の児童数の減少を考えると、幼稚園において1号認定児童だけでなく、2号認定児童についても預かることが有効ではないか。さらには、1号及び2号認定児童をひとつの教室で預かることによって、ある程度の人数がまとまり、教育効果が高くなると思われる。
- ・直近の待機児童対策として、1号及び2号認定児童の児童を既存幼稚園施設で預かり、3号認定児童は保育所で分散して預かることは検討できないか。
- ・山間部にある公立保育所への保護者の送迎の負担や施設の老朽化を考えると将来的には新しい認定こども園の建設が必要となるのではないか。

これらの意見を受けて、事務局の待機児童対策案として、既存施設

（白山幼稚園及び下高岡保育所）を活用した分園式認定こども園化について提案する。各委員から出された意見等の主な内容は下記のとおり。

- ・きょうだいがある本園及び分園へ別々に通うことは保護者にとって大きな負担となる。
- ・白山幼稚園への進入道路や駐車場は非常に狭く、地元や周辺地域に支障をきたさないか。
- ・在園児及び保護者への大きな負担となるため、十分な説明と理解が必要である。
- ・本園（3歳以上児）と分園（3歳未満児）との交流機会を十分確保するなど、スムーズな移行ができるよう配慮が必要である。
- ・遊具や施設等の改修、条例制定や認可申請手続き、入所申込といったスケジュールに無理はないのか。
- ・分園化となると幼稚園と保育所の活動や各種行事のすり合わせ等について十分な検討及び配慮する必要がある。
- ・教職員や保育士の保有資格については問題ないのか。
- ・教職員と保育士が新たなこども園の運営に関してしっかりと準備し、共通理解できるための準備期間が必要である。

③ 次回の委員会について

既存施設（白山幼稚園及び下高岡保育所）を活用した分園式認定こども園化の案をベースにして、中間答申（案）としてとりまとめ、次回委員会において協議する。

（４） 閉会

7 配布資料

- ・ 公立保育所地区別児童数
- ・ 既存施設を活用した手法について
- ・ 分園式認定こども園のイメージ等
- ・ 白山幼稚園及び下高岡保育所位置図

以上